

## みんなで考えよう！ 書写指導③（毛筆編）

### 毛筆用具の準備

#### 児童の毛筆用具について注意すること

##### 筆のキャップは捨てる

- ・まず、筆の穂先を保護しているキャップを外し、捨てるように指導します。筆を使用した後にこのキャップをすると毛先を痛めたり、かびたりする原因になります。



#### 太筆のおろし(ほぐし)方（※以下「おろす」と記します。以下は右手でおろす場合）



- ① 筆の軸を左手でしっかりと握り、右手の爪で穂先を縦に割る。



- ② 親指のはらと人差し指の第一関節と第二関節の間で穂先の方から少しずつ力を加えておろしていく。



- ③ 2・3回同じ場所をおろしたら、左手で軸を30度から45度回転させて②の動作を繰り返す。



- ④ 一周したら、まだほぐれていないところを②③の方法でおろす。左手の手のひらで余分な毛を落とす。



- ⑤ 毛の部分を2/3くらいおろしたら終了。

※家庭で行ってもらう場合は、筆をおろしたあと、毛先を軽く水洗いしてもらうとよい。

#### 小筆のおろし方

- ・太筆と同じ要領でおろしますが、小筆は穂の1/2～1/3程度しかおろしません。
- ・小筆は墨抜きのために洗うことはしません。反故紙<sup>ほご</sup>をぬらして、墨汁を拭き取り、しまします。

#### 墨汁の選び方

- ・墨汁は市販されているもので構いませんが、書き初めの場合やポートフォリオ評価のために長期にわたって掲示・保存する場合、「洗濯すると落ちる書道液」は適しません。長時間光に当たったり、高温の場所にあたりると色抜けしてしまい、文字が茶色く変色したり、消えてしまったりする場合があります。用途に合わせて選ばせてください。

#### 墨汁の含ませ方

- ・毎時間の筆の使い初めには、一度根元までたっぷり墨汁を吸わせ、ぼたぼたと落ちる状態にします。その後、硯の「陸」の部分で筆を手前に引く要領で、余分な墨汁を落とします。このとき、穂先がまとまるようにします。筆を立てて持ち上げたときに墨汁が落ちない程度にします。
- ・2回目からは書いた分だけ墨汁を継ぎ足すイメージで、筆に墨汁を含ませます。
- ・墨汁の量が少なすぎると、書いているときに筆の毛が割れてしまう原因になりますので注意しましょう。



墨汁の含ませ方



「陸」で余分な墨汁を落とす。

#### 硯の手入れ

- ・硯は、使用后残った墨を拭き取っておきます。しかし、何回か使用すると角の辺りに墨がこびりついてしまいます。そんなときは水洗いをしてきれいにします。水だけで落ちないときは、ぬるま湯にしばらく浸けておくと落ちやすくなります。
- ・最近の硯はリバーシブルになっているものが多くあります。「海」が小さく「陸」が大きい方は普段の学習で、「海」が大きく「陸」が小さい方は書き初めなどでより太い筆を使うときに使用します。

#### 文鎮の使い方

- ・文鎮は二本に分かれているものが主流になっています。半紙の上の両端に「ハ」の字に置くとよいでしょう。2文字以上書く場合、書く文字によっては一本を上端に置き、もう一本を半紙の中ほどに置くこともあります。一本の場合は半紙の上端に置くことが基本です。



毛筆用具の置き方

#### 下敷き

- ・ます目が入っている下敷きは、作品作りの時には利点もありますが、書く文字によってはかえって邪魔になる場合があります。そのような時は裏返して使います。

#### 固形墨

- ・学習では、墨汁を使うことが多いのですが、固形墨を擦る体験をさせると、児童の用具への関心が高まります。準備が早くできた児童には、固形墨を硯で擦る経験をさせるとよいでしょう。

#### スポイト

- ・スポイトは、水を硯に入れる場合に使うものです。墨汁を吸い上げてはいけません。使い残した墨汁は、指定の場所に捨てるか、反故紙で拭き取るかして、墨液の容器に戻さないようにしましょう。スポイトは水だけしか吸い上げません。